

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	昔とった杵柄 事業 ～「古老の知恵と技」でコミュニティの元気を創る～
対象地域	三次市作木町（旧双三郡作木村）
活動概要	<p>作木町は人口の減少、高い高齢者比率、少子高齢化の進む中で、「維持存続が危ぶまれる集落」も年ごとに増している。</p> <p>集落の意向調査では生活交通や雪かき草刈りの困難さなど、日々の暮らしの厳しさを垣間見ることとなった。</p> <p>これまで議論してきた「もう一つの役場構想」の具体化を急ぎ、「暮らしを守る地域サービス」の提供と、多い高齢者と共に「攻めて創る地域の元気づくり」を目指す。</p> <p>高齢者と共に「攻めて創る地域の元気」の仕掛けとして ①地域資源の中でも特に古老の知恵や技に着目し、全町上げての共通テーマとして、各地域で記録に残す活動を展開する。②古老の知恵や技の出前講座を企画実施する。④作木をふるさとに持つ多くの人々と新たな「ふるさとコミュニティ」の仕組みをつくる。</p> <p>地縁組織としての活動も高齢化する中で停滞気味であり、暮らしを総合的に支援したり、地域や個々の課題の解決をお手伝いするテーマ対応型あるいはNPO型とも言える仕組みの出現が求められている。</p> <p>平成20年2月に「限りなく公益法人に近い株式会社、『株式会社わかたの村』」（「我が家・自分たち」の意味の方言）を立ち上げ、専門性を有し、事に当たっては機敏に反応できる株式会社の良さを発揮したいと考えている。</p>
今年度の主な取組	<p>高齢化の進む中山間地域におけるコミュニティの創生と自立について、次の取り組みにより、今後の方向性について検討する。</p> <p>①長年の生活経験の賜である「古老の知恵と技」の聞き取り調査を行い、既存の取り組みである「わかたの村名人体験ツアー」等が、より魅力的になるよう調査結果の整理を行う。</p> <p>②新たな試みとして「古老の知恵と技」を披露できる「出前講座」を実施する。</p> <p>③関係者が地域の情報を共有し、コミュニケーションができるような場をつくるために、人的ネットワークの構築、及びホームページの検討を行う。</p> <p>④以上の活動の成果を検証し、今後の活動の方向性について検討する。</p>
活動結果	<p>①「古老の知恵と技」の聞き取り調査について、この調査の意味や価値を多くの人に知ってもらい、多くの協力者を得られたことは今後の継続での調査に可能性をもたせてくれた。また調査のために高齢者宅を訪ねることが、家の中に籠もりがちな方々にとっては好評で、話し相手として快く迎えてもらった。高齢者の孤立に対するコミュニティ再生のきっかけにならないかと考えている。</p> <p>②出前講座の実施については、来てもらおうとするばかりでなく、出かけることで作木のPRができないかと企画したが、各会場とも反響があり、効果を感じた。しかし告知や集客等課題は多く、今のところ収益があがり軌道に乗せるには更に検討、工夫が必要と考えている。</p> <p>③人的ネットワークの構築については期待した程の成果を得ることができなかった。しかしその重要性や有効性については必要なプロジェクトと確信している。情報の回収が進まないことが課題であるので、回収率向上の策を練って実施していく。</p>

<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>元気な高齢者を相手にしたプログラムもあったので、21年度から社会福祉協議会と協働で新事業を試行する話が持ち上げている。</p>
<p>実施状況(写真)</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>【写真】 古老の聞き取り調査 出前講座(しめ縄づくり)</p>
<p>応募団体名</p>	<p>株式会社 わかたの村</p>
<p>リンク</p>	<p>http://www.wakatanomura.co.jp/</p>
<p>部局／担当者名</p>	<p>安藤周治 木原貴嗣</p>
<p>連絡先</p>	<p>0824-55-3530</p>
<p>推薦市町村名</p>	<p>三次市</p>